

報告

ジュニアセッション第2部 Astro-HS 全国フォーラム 2009 開催の報告

塚田 健（姫路市宿泊型児童館「星の子館」、Astro-HS 運営委員会）

1. はじめに

去る 2009 年 3 月 27 日（金）、日本天文学会春季年会ジュニアセッションの第 2 部として、高校生天体観測ネットワーク（以下、Astro-HS）の全国フォーラムを年会会場でもあった大阪府立大学学術交流会館で開催しました。タイから参加したグループを含め総勢 30 グループ 180 人を超える高校生と先生方が集まり、盛況のうちに終えることができましたのでご報告します。

2. 午前の部

2.1 2008 年度活動及び 2009 年度活動予定報告

はじめに 2008 年度の Astro-HS の活動と 2009 年度の活動予定についての報告が西谷徹さん（岐阜県博物館/Astro-HS 事務局）からありました。Astro-HS では、2008 年度の観測テーマを「太陽」として黒点のスケッチ観測をはじめ電波観測や $H\alpha$ 観測などを提唱してきましたが、太陽活動の低調もあり、報告数が伸び悩みました。報告にあったコメントも紹介されましたが、高校生たちの黒点を待ち望む声が聞こえてくるようでした。

2009 年度は、皆さんご存知のように 7 月 22 日に皆既（日本のほとんどの地域では部分）日食が起こります。この観察をメインテーマとし、2008 年度から継続して太陽の観測も続けることとしました。今年こそ、太陽活動が活発化してくれることを信じて…。

2.2 講演

続いて、最新の天文学に関する講演を行いました。2008 年度の観測テーマが「太陽」と

いうことで、いま話題の太陽観測衛星「ひので」の科学的成果について東京大学大学院博士課程 1 年（当時）で国立天文台ひので科学プロジェクトに所属する石川遼子さんに講演していただきました。太陽とはどういう天体か、太陽面で起こっている現象について、太陽における磁場について、彼女の研究テーマでもある水平磁場についてなどをわかりやすく話していただき、高校生をはじめ、顧問の先生方からも非常に好評でした。質疑応答では高校生や顧問の先生から多くの質問があり、休憩時間にも何人かの高校生が直接石川さんに質問する場面もありました。高校生たちと年齢が近かったこともあり、研究者が身近に感じられたようです。来年度以降も、このような講演会をフォーラム内で実施していきたいと考えています。



図 1 講演の様子

2.3 1 分間 PR

このフォーラムは、普段は全国に散らばってなかなか直接会うことのできない天文好きな高校生たちが、じかに会って交流を深めることを最大の目的としています。とはいっても、緊張などもあってなかなかいきなり打ち

解けることはできません。そのため、まずはそれぞれの参加グループに自己紹介をしてもらおう、というのがこの1分間 PR です。たった1分間、スライド3枚という限られた条件の中で、各グループがリレー方式で自分たちのメンバーや普段の活動を紹介していくものです。ジュニアセッション同様(?)、毎年レベルが高くなってきていて、今回は寸劇(?)あり、ものまねあり、おみやげありの賑やかな PR 時間となりました。このプログラムの間だけは、スタッフ側が司会をしても固くなってしまいうだろうという考えから、例年、参加高校生に司会をお願いしています。今回は長野高等専門学校の皆さんに司会をお願いしましたが、時間をオーバーしたら会場内の照明を落とすというやや手荒な演出で会場を盛り上げてくれました。

また、今回は後述するようにポスター・ブース発表をできる時間を設けましたが、先生方も高校生に負けじと発表し、1分間 PR で



も自らのブースの宣伝をしていただきました。

図2 大いに盛り上がった1分間 PR

3. 午後の部

3.1 講演

昼休憩などをはさんで午後の部のはじめは筆者による講演ではじまりました。テーマは「私と天文の関わり」ということで、自分がこの Astro-HS の OB であることも踏まえ、自分が高校時代をはじめとしてどのように天文と関わってきて、なぜこの道を選んだのか、

ということについて話させていただきました。会場には140名を超える高校生がいましたから、それぞれ将来は様々な道に進むと思います。天文学の研究を志す人もいれば、筆者と同じように教育普及関係に進む人もいるでしょう。とはいえ、天文とは関係のない道に進む人が大半だと思います。それでも、自分が楽しいと思って高校時代に打ち込んできた天文と、違った道に進んだからといって縁を切ってしまうのではなく、何らかの形でつながってほしい、そして、自分が楽しいと思ったのだから、ぜひまわりの人にも広めてほしい、というメッセージを、体験談を交えながら伝えたつもりです。

3.2 「天体望遠鏡 400 年」ポスターの紹介

続いて、フォーラムで高校生一人一人に配布した「一家に1枚 天体望遠鏡 400 年」ポスターの紹介を、その制作の中心となった国立天文台の臼田一佐藤功美子さんにいただきました。この「一家に1枚」シリーズは、毎年、文部科学省が科学技術週間(2009年は4月13日~19日)に合わせて制作・配布しているもので、天文関連では2007年に「宇宙図」が配布されたことが記憶に新しいと思います。今年は世界天文年ということもあって標記のようなポスターとなりました。臼田一佐藤さんにはポスターの趣旨や内容の説明を、ご自身の普段の活動紹介とともにしていただき、その後の交流セッションにも参加していただきました。高校生の皆さんには、ぜひこのポスターを家に貼って、じっくりと眺めて欲しいと思います。

3.3 交流セッション

最後に、フォーラムのメインとなる交流セッションを行いました。今回は、希望するグループには会場内にポスターを貼ったりブースを出したりするスペースを用意しました。

ジュニアセッションのポスター発表とは異なり研究発表だけではなく（もちろん研究発表も可です）、むしろ普段の活動紹介をメインとしているため、文化祭で投影しているプラネタリウムを展示したグループや、巡見の報告をしたグループなどもありました。また、前述したように先生方も何人かがブースを出され、多くの高校生を集めていました。思いのほか広いスペースが取れたため、高校生は思い思いにポスター・ブースを巡り、自分たちの活動を宣伝しつつ、仲間を集め、交流を深めていました。

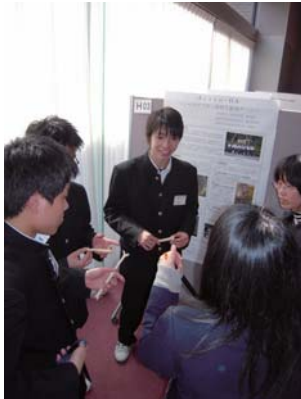


図3 交流セッションの1コマ

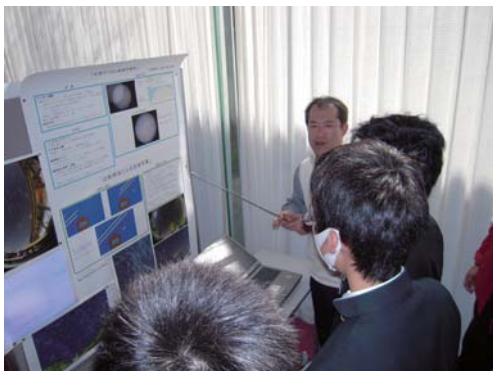


図4 好評だった先生方のブース

4. まとめ

この Astro-HS 全国フォーラムは、2002 年に第 1 回を開催してから今年で 8 回目となります。高校生同士の親睦交流を目的として、毎年かたちを変えながらも開催されてきまし

た。筆者も初めに参加したときはまだ大学入学前でしたが（でも高校生にも非ず）、そのときに会った多くの仲間、先輩、先生方がいたからこそ、今の自分があると思っています（当時のフォーラムの冒頭挨拶で水戸黄門の格好をして登場したのが、後の指導教官である水野さんとの衝撃的な出会いでした(笑)）。現在は自分も Astro-HS を運営する立場にありますが、いまの高校生たちにも自分と同じような刺激・出会いを提供できるよう、今回のフォーラムも運営してきました。ジュニアセッションがあるではないか、という声もあるかもしれませんが、年々レベルが高くなるジュニアセッションに対し、Astro-HS では誰もが取り組めるような活動を提案してきました。そして多くの高校生たちに本物の天文現象に触れる機会と、それを共有し科学する楽しさを伝えられる Astro-HS の活動は重要であると思います。次回以降もこのような実り多いフォーラムを開催していきたいと考えています。個人的には、ゆくゆくは高校生自身の手でフォーラムを企画・運営していつもらえればと期待しています。

5. 謝辞

最後になりましたが、このフォーラムを行うにあたり、会場準備はじめ多くを日本天文学会年会開催地幹事の米倉さん、及び大阪府立大学学術交流会館事務室の皆さんにお世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。